工業つ子

No.169
—発行日—
2018.07.20
—編集—
長崎工業高校新聞部
—発行—
長崎工業高校新聞部

H30年度 高総体
炎天下の熾烈な戦い

六月一日、佐世保市総合グラウンド陸上競技場で行われた県高総体総合開会式。雲一つない空の下、選手の闘志を表したような熱い空気の中、高校生の戦いの幕が開きました。

佐世保市総合グラウンド陸上競技場で行われた開会式。今年、一糸乱れぬ連携のマーチングを見せたのは佐世保東翔高校の吹奏楽部。そして、行進の先頭を華やかな演技で飾ったのは佐世保南高校のバトントワラーズでした。

今年度は七十周年記念大会ということで、太鼓の力強い演奏に合わせて、今大会のスローガン「限界突破 轟け感動」が力強く書き上げられる佐世保西高校の書道部、太鼓部による書道パフォーマンスも披露されました。

長工から入場行進に参加したのは、ソフトテニス、バレーボール、サッカーの各競技に出場する選手たち。旗手を男子バレーボール部所属C3松尾弥暁君が務めました。松尾君は行進を終えた後、感想を聞くと「緊張せずに堂々とできて良かった」とホッとした様子で話してくれました。

▶勝利に向かって進め！

▲河喜多さんの作品

高総体ポスター 優秀賞受賞

ポスター図案で優秀賞を受賞、表彰されたのはI3河喜多亜実さん。このことについて河喜多さんは「受賞することができて嬉しいです。自分の中で納得のいく作品を描くことができました。先生方からも良い評価をいただけて、とても良い経験になりました」と笑顔で話してくれました。

▲書道と太鼓のコラボ（佐世保西）

身近な問題から発想力を

六月から七月始めにかけて、多かった雨の日。そんな雨の日に活躍するものの一番は、やはり、「傘」。身を挺し私たちを雨から守ってくれる傘。ですが、みなさんは大切に扱っていますか。と言うのも、現在、バスや電車内でも忘れ傘の本数は年々増加傾向で、「忘れ傘問題」が社会的な問題ともなっています。

実際に長崎駅に「忘れ傘」について問い合わせてみました。すると、二〇一七年度には三百六十一本の傘が忘れ物承り所に送られてきたとのこと。送られてきた忘れ傘は専用のシステムに登録されます。そして、持ち主が見つかり次第、返却されることになっています。昨年度、届けられた傘のうち、持ち主の元へ無事もどった傘は四十九本。約一割しか戻っていませんでした。

持ち主が現れなければ、承り所に増えていく一方の「傘」。この問題の解消方法の一つに「鉄道忘れ物市」があります。所有権の切れた忘れ物を市場という形で売る催し物です。会場には傘だけでなく、時計やサングラスなども出品されています。ただ、開催地や時期は不定期で長崎ではまだ開かれていません。しかし、忘れ物市の開催にも人手お金もかかっていません。まずは自分の持ち物を大切に、忘れたら取りにいくことが大事です。

傘といえば長工では、玄関のスノコが傘からの水滴で水浸しになってしまうことが問題として生徒総会で挙がりました。巷では傘の水滴問題解消のために反対側に畳める傘などのアイデア商品も登場しています。

ものづくりに携わる工業高校の生徒である私たちです。校内での「傘」の悩みを解消するための「忘れ傘」をなくすアイデアを考えてみてはどうでしょうか。アイデアや発想力を育むもとは身近にあります。

（草野）

優勝！ チームワークで勝利を掴む
水泳部・水球

六月二日に長崎西高校プールにて行われた水球競技。会場には絶えず応援の声が大きく響いていました。特に長工の応援では野球部が中心となって会場内をさらに盛り上げました。

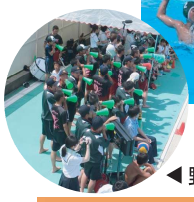
試合の相手は長崎西高校。顧問の坂本先生による確な指示と選手の息ある合ったプレイにより、結果は十六対九で勝利。終了後、主将のP3岡凌翔さんは「いい流れで勝つことができた。優勝で満足せず、九州大会も頑張りたい」と話し、坂本先生も「よく頑張ってくれた。あとは九州大会に繋げてほしい」と次の大会に向けての期待もこめて話されていました。

応援の生徒や先生方も「迫力があってチームワークの良さに感動した」（C3栗原にこさん・M2手島紘那さん）「筋肉がすごい。選手の泳ぎが速くて驚いた」（I2野口音暖さん）「初めて水球競技を見たが、展開が早くて驚いた」（嶋本先生）と試合の感想を感動の想いをこめて語ってくれました。鍛え抜かれた力で対戦相手や応援者を圧倒し、勝利を見事つかんだ水球部でした。

練習を積み、力を付けてきた長工水球部。九州大会の結果でインターハイ出場が決まります。

▲ボールは通さない！

▲パスを繋ぐ



◀野球部による応援団

優勝！ 男子を上回る力強さ
ヨット部

九州大会も制し、インターハイ出場決定

六月二日に、長崎サンセットマリーナで行われたヨット競技。当日、無風が心配されていましたが、試合開始時間が近づくにつれて風が吹き始め、無事試合が実施されました。

試合前、顧問の三嶋先生が前日四時間かけて製作した特製ドリンクがメンバー一人一人に手渡されました。選手も一層気合の入る特製ドリンク。飲んだ感想を選手に聞いてみると「去年は甘い味だったけど、今年はレモンのすっぱさが良い感じ」とのこと。毎年、配合が違うようです。

本校ヨット部は県内唯一の女子チームで、高総体の県大会は他の高校の男子ヨット部とのレースになります。しかし、試合では男子チームより早くゴールし、見事優勝を勝ち取っていました。

主将のC3藤尾万唯華さんにレースの感想を聞くと「風が弱くてレースがしにくかったが、それぞれの艇が一生懸命できた。この大会は通過点で九州大会までの時間を有効に使ってインターハイで優勝旗を奪還したい」と次の大会に向けての意気込みを語ってくれました。三嶋先生にお話を伺うと「今日のレースは七十点くらい。九州大会に向けて、防げるミスは防げ」とのこと。

県高総体直後の六月十七日から十七日に九州大会が行われ、学校対抗で、優勝したヨット部。団体だけでなく、個人でもインターハイ出場を決めています。次のステージに向けて、更なる練習に取り組んでいきます。なお、ヨット部の九州大会の詳細については後日掲載します。

▶しっかり確認

▶風を読み 自分を信じて

青春日記♪

七月に入り、そろそろアイスが恋しくなってきました。私は扇子で暑さをしのいでいます。ですがこの扇子、いつも安物買うせいか毎夏終えるごとに一つ壊れてしまいます。「ひと夏の思い出」となっています。

『思い出』と言えば、記憶に新しいのが高総体。私は佐世保で行われた男女ソフトテニス、バレーボールと平戸で行われたサッカーの取材に行きました。私一人で五つの競技を見て回ることは不可能なので、急遽、大変な初日にクラスメイトに助けてくれて、ありがとう。

感謝です。

高総体はどの競技も魅力的で、取材していて出場選手の熱意がストレートに伝わってきました。

そして、私はこの高総体期間中に一つ気づいたことが……。一日目の取材の帰り、親の迎えを待つ間に自販機でキャラメルラテ（ホット）を購入。ところが、これが熱いこと熱いこと。甘さと熱さが入り混じって「あまっつい！」と思わず言ってしまうほど。そこで二日目は「ぬるめ」を選択。しかし、それでも熱い。自分が立派な猫舌であることを知りました。

さて、高総体が終わると三年生の運動部員の多くは引退し、放課後の過ごし方が多様になってきます。が、過去の例から見て、卒業式の日まで活動があるであろう新聞部。「放課後すぐに帰ることに違和感がある」なんて言いながら帰宅するクラスメイトにうらやましさも少々。しかし、これも宿命。ひたひたと近づいてくる就職試験と両立させながら、何とかやります。

（渡部）

二面へ続く

ベスト4

ハンドボール バドミントン男子

悔しさをバネに

ハンドボール部

六月二日から四日の計三日間にかけて行われたハンドボール競技。会場には応援の声が響き渡り、活気ある試合となりました。

一日目は長崎工業高校体育館で行われた初戦は鹿町工業高校に二十四対十五で見事勝利。二日目の二回戦では大村高校と対戦。これも四十七対六の大差で勝利。

そして三日目の三回戦。瓊浦高校と対戦し、十七対二十三で善戦するもあと一歩のところで敗退。

試合を振り返って、主将のM3中村泰生君は、「強い気持ちで試合に臨みました。しかし、自分たちのペースをつかむことができませんでした。後半持ち直すことはできたけれど、前半の七点差が大きく影響し、勝つことができませんでした」と話してくれました。

また、顧問の大渡先生にも感想を伺うと「三年生、よく頑張りました。残念な結果に終わりましたが、自分がやってきたことに自信を持って高校生活を頑張ってください」と選手に向けてねぎらいの想いをこめた言葉が返ってきました。

準決勝敗退となりましたが、とても熱い試合を見せてくれたハンドボール部。見る人を感動させるような試合は必ず次に繋がると感じました。

◀ボールに想いを込めて

▲次の作戦は……

結果を次に繋げる

バドミントン部男子

六月二日から五日にかけての五日間で行われた高総体男子バドミントン競技。諫早市小野体育館でシングルス、ダブルス、団体戦のそれぞれの試合が行われました。試合が始まる直前のコート付近には各チームの気合十分な緊張感が漂い、会場は引き締まった空気に包まれていました。

団体戦では準決勝に進出するも強豪瓊浦高校との対戦となり、善戦及ばず、〇対三で敗退。ベスト4となりました。

個人ではシングルスでE3猪野静己さんが、ダブルスでE3大杉・E2木下ペア、E3猪野・C2松本ペア、C2山本・D2副島ペアが、ベスト16になりました。

この高総体を振り返って主将のE3猪野さんは「九州大会にも行けないのは悔しい。けれども来年に繋がる結果を残せたとその思いを話してくれました。

顧問の松尾先生は「瓊浦戦までは良い流れだった。例年に比べると悔いの残らない試合になったのではないかと思う」と話されていました。

残った一、二年生が三年生の思いを引き継ぎ、さらなる活躍をすることと期待されるような試合でした。

▲意地でも打ち返す

▶よっしゃあああ！

ベスト8

男子バレーボール ソフテニス男子 卓球男子

普段のように集中

男子バレーボール部

佐世保市体育文化館で行われた男子バレーボール競技。初日の対戦相手は西海学園でした。「一試合目が大切なので、集中してしっかり勝ちたい」と話していた主将のD3小島大樹君の宣言通り、二対〇で長工のストレートで勝ちました。試合を見に来られていた保護者の方々やOB・OGの方々に感想を伺うと「皆、大きくなっていった／チームワークが良かった／明日も頑張ってほしい」という言葉が返ってきました。

二日目の対戦相手は昨年度悔しくも敗れた佐世保工業高校。1セット目むかえデュースにもつれ込み長工が気合で押しましたが、二対〇でまたもや長工がストレート勝ちしました。

三日目の対戦相手は鎮西学院。一セット目をデュースで辛くもとったものの、その後流れに乗れず一対二で惜しくも敗れ、ベスト8という結果に終わりました。

▲いつも通り落ち着いて

▶集中してテンポ良く

多くの声援に囲まれて

男子ベスト8 三十五年ぶり女子も一勝を飾る

卓球部

六月二日から五日にかけて行われた卓球競技。男女ともに諫早市中央体育館でシングルス、ダブルス、団体戦が行われました。会場内ギャラリーは通路を通るにも一苦労するほど応援者で溢れ、多くの声援が聞こえました。

男子団体は準々決勝で強豪校の鎮西学院との対戦となり、残念ながらストレートで負け、ベスト8となりました。

久々の団体出場となった女子。一回戦は大村工業高校と対戦し三対二で勝利しました。二回戦の対戦相手は長崎西高校。残念ながらストレートで負けてしまいました。

今回の高総体を振り返っての感想を主将のI3八色海斗さんは「部員が一丸となって試合することができて良かった」と話されました。

また、顧問の松下英樹先生は、「男子は、精一杯やってくれた様子が見られた。女子については三十五年ぶりの出場でできれば良かった。一勝することができたらに期待したい」と感想を話されました。

来年はさらに力を発揮し、勝ち進んでくれることを期待しています。

フェンシング部

想いはすでに全国へ

優勝！男子団体～個人も好成績 女子団体は準優勝

六月二、三日の二日間にかけて、諫早商業高校体育館で行われたフェンシング競技。

団体戦は男子が三年連続の優勝を果たし、女子は準優勝となりました。

個人では、C3永松泰樹さんが全国・九州大会出場、C3井上翔太さん、C2松永一朗さん、D3松下優菜さんが九州大会出場を決めました。

閉会式終了後、主将のC3永松さんに感想を聞くと「個人が勝てば、それがチームの勝ちに繋がるので、個人のレベルアップをしていきたいです。全国でも良い成績を残せるよう頑張るので応援よろしくお願いします」と次への意気込みを語り、すでに気持ちは全国大会に向かっていました。

女子団体は決勝戦で諫早商業高校に惜敗。A3松本さくらさんは「最初に相手に一勝され向こうに流れがいっていたのがメンバーが一勝獲った瞬間に空気が変わって元気がもらえました」と試合の感想を話していました。

また、試合後、顧問の平先生は「女子がインターハイにいけなくて残念。一年生を強化していきたい。来年は男女でインターハイにいけるように頑張ろう」と感想を来年への想いも交えて話されていました。

インターハイは八月一日から五日までの五日間、愛知県で行われます。さらなる活躍を期待しています。

▶一瞬の隙を突く

▲最後は笑顔で

総合7位 「全力でがんばった。楽しかった！」

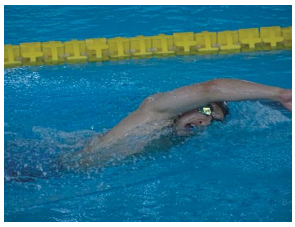
水泳部・競泳競技

六月二日から三日の二日間にかけて長崎市民総合プールにて行われた高総体競泳競技。

200M個人メドレーでE3原田樹さんが二位、P2高橋侑里さんが五位、400M個人メドレーでE3原田さんが三位、P1江頭大輝さんが五位、50M自由形でP3和泉勇輝さんが五位、100M背泳ぎでP3水上樹翔さんが七位、200Mバタフライで M3峰司馬さんが七位。4×200Mリレー七位、4×100Mリレー八位という成績を決勝に進出した競技で残し、学校総合で七位になりました。そして、原田さんを始め、和泉さん、高橋さん、江頭さんの計四名が九州大会へと駒を進めました。

多くの声援が飛び交う会場。応援の保護者の方々にお話を伺うと「良く頑張っていて応援のやり甲斐がある」「今までの努力の結果が出るよう、悔いのないように頑張って欲しい」などの言葉が返ってきました。

主将のE3原田さんは試合の感想を聞くと「良い結果は残せなかったが、皆、全力で頑張ってたと思うので楽しかったです」と語りました。



▲1秒でも速く、前へ

三面へ続く

主将のD3小島君は、「二日目に対戦した佐世保工業高校は昨年の試合で負けて悔しかったので、リベンジ出来て良かった。試合通しで普段と同じプレーができてよかった。しかし、少し崩れたら立て直せないところがあるので、後輩たちにはそれを克服してほしい」と試合後、今回の試合を終えての思いを話し、後輩たちに後をを託しました。

顧問の江川先生は「結果はまだまだというところだが、三年生の頑張りで視界が少し開けた。三年生の頑張りに恩返しをするためにも、次の世代で長崎のトップを獲る」と次に向けての強い意気込みを語ってくださいました。

長崎地区

学んだ礼儀を大切に
柔道部

六月二日から三日の二日間にかけて県立総合体育館サブアリーナで行われた高総体柔道競技。

一日目に男子団体戦。長崎日大高校と戦いました。結果は〇対五で、悔しくも完敗でした。

二日目の個人戦では、男子81kg級でE3西諒一郎君が鎮西学院高校、M3川越海斗君が長崎日大高校と戦い、男子73kg級でA3松本幸輔君が佐世保工業高校と対戦しました。どの選手も残念ながら勝つことは叶いませんでした。

高総体の感想を主将のE3西諒一郎さんに聞くと「団体戦は日大相手に良い試合ができなかった。個人戦は力は出せたが、負けてしまった。最後の試合だったので悔しい結果になってしまいとても残念です。柔道を通して礼儀や作法など多くのことを学べたので、これから社会に出たときに使えるよう、心身ともに刻んでおきたい」と話してくれました。

▶両者一歩も譲らず

技術の向上を目指して
ラグビー部

六月二日、長崎市営ラグビー・サッカー場にて行われたラグビー競技。佐世保北高校の一回戦。照りつける太陽の下激しいぶつかり合いとボールの取り合いの末、二十九対十二で勝利しました。二回戦は資格試験と被り人数が足りなかったため、棄権となりました。

この試合の感想をキャプテンのC3吉居柊弥さんは「二試合目で棄権してしまったけど自分たちらしい良い試合ができたので悔いはないです。十月の花園予選が本当に最後の試合になるので、ひとつでも勝てるように全力を尽くしたいです。頑張りましょう」と話してくれました。また、顧問の下村先生は「助っ人や新一年生など、ほぼラグビー未経験者だったが、短い練習にも関わらず、成果を発揮でき役割を果たせていたと思う。一回戦はイメージ通りの試合ができた。花園予選が近づく中、三年生は進路を決める大事な時期になり、部活と勉強の両立が難しくなると思うので時間を上手に使って、各学年、技術・フィットネスを上げてほしい。これから暑くなっていくので、暑さとも相談しながら頑張りたい」と今後の意気込みを込め語ってくれました。

◀激しいタックル

花園に向けて部員大募集!!

中地区

後輩に想い託す
陸上部

▼全力で走りきる！

六月二日から五日までの四日間、トランスコスモスタジアム長崎で行われた陸上競技。男子4×100mリレーで準決勝に進出するも、残念ながら決勝へ進むことはできませんでした。

今回の高総体について感想を主将のP3白石歩夢さんは「もっとやれた。後輩には、これからもっと頑張ってほしいです。まずは、皆で団結して、チーム力の強化を図ってほしい」と次に向けての想いも含め、話していました。

顧問の菅崎先生は「一、二年生はとにかく頑張れ。高総体は思うような結果にならなかった。コツコツ練習していきたい」と話してくださいました。

懸命にやり遂げた
バスケットボール部

▲気合いのシュート

六月二日から五日にかけて行われたバスケットボール競技。会場に入った瞬間、選手や応援の人たちの熱気で、とても暑く感じました。大村市体育文化センターで行われた対馬高校との一回戦。五十八対四十三で勝利を収めました。続いて北陽台高校との二回戦。試合が始まると、対戦相手を含めて会場が一体になっていて、点数を取っては取り返されるハラハラする展開でした。結果は五十七対四十一で勝利。

二日目、諫早市とどろき体育館で行われた長崎日大高校との三回戦。結果は六十七対八十三で負け。ベスト16という結果となりました。

今回の結果について、主将のP3今見心さんは「いい結果は残せなかったが、みんな全力で頑張ったと思うので楽しかった」と語っていました。

顧問の松瀬先生は「負けたのは悔しいが、みんな懸命にやってくれた。けが人が多かったが、それも勝負のうちだ」と、試合に対する思いを話されていました。

来年度のさらなる飛躍を期待しています。

悔しくも実力出せず
剣道部

六月二日から四日にかけて行われた高総体剣道競技。会場は諫早市森山スポーツ交流館。剣道は礼儀も重要視される競技。試合会場は静かな中にも闘志を秘めている選手が多くいることが伝わるような雰囲気でした。

長工の選手も全員集中していて、その姿から意地でも勝ちたいという意志が感じられました。試合は迫力があり、とても見応えある競技でした。

一日目に個人戦、二日目に団体戦が行われました。団体戦の予選リーグでは佐世保工業高校、長崎北高校と対戦。長工の二試合とも惜しくも負けてしまい、決勝トーナメントへの進出はなりませんでした。

ただ一人女子で出場したC2の林田愛理さんを含め、皆、最後まで誰も諦めた様子を見せず、試合に臨んでいました。長工生の勇ましい姿を見ることができました。

今回の感想を主将のA3中村鷹弥さんは「十分に実力が出し切れなかった」と悔しさそうに語っていました。

顧問の田崎先生は「予選リーグで〇対一と惜敗した。次回は勝てるチームを作って試合に臨みたい」と話されていました。

今回の悔しさをバネにした来年度の活躍を期待しています。

▲真剣に向かい合って

ベストを尽くした
バドミントン部女子

▲渾身のフルスイング

六月二日から四日までの三日間、諫早高校体育館と諫早市体育館の二会場で行われた女子バドミントン競技。会場は閉め切られており、選手たちの熱気が渦巻いていました。

団体戦、初戦は二回戦から。小浜高校と対戦し、三対一で長工の勝利。続く三回戦、活水高校と対戦し、ストレートで負け。団体ベスト16という結果になりました。

高総体後の感想を主将のA3川崎風花さんは「団体戦・個人戦共に一勝できて良かったです。応援も声を張ることができました。三年生が引退すると一年生だけになってしまうので、周りの芯になれるよう、自分たちが流されず、自分たちがしっかりしてほしいです」と、これから一学年で頑張っていく一年生たちに向けての想いも込めてを語ってくれました。

顧問の砂田先生は「団体戦・個人戦それぞれ一勝できたので、ベストを尽くせて良かったと思います。良い試合で感動しました。一年生はメンバーは団体戦に出られなかった状態ですが、来年は団体戦一勝を目指して頑張ってください」と感想を話されていました。

三年生が引退すると、一年生部員だけとなってしまう女子バドミントン部ですが、三年生の高総体を引き継ぎ、来年の高総体も、ぜひ頑張ってほしいと思います。

長工生に向けたメッセージ
風林火山①

高総体やものづくりコンテストの練習風景などを、行事前に体育館で公開している動画、風林火山。これはI科の武田先生と美術の水田先生が主が中心となって制作されています。今回、制作にかかった時間はおよそ八十時間（撮影十三時間）。データは800GBにもなるそうです。

◀奮えよ、長工生

風林火山について武田先生に話を伺うと「もちろん、選手が活気づいてくれたら……という思いもある。他の目的としては、選手でない人にも動画を見てもらうことで、長工生がどんなことをしているのか活躍を知ってもらうことも目的の一つ。そして、長工は毎年入試の倍率が高いが、これからも生徒がひたむきに物事に取り組むことで、多くの人に長工のよさが伝わればと思う」と長工生に対する気持ちを語ってくださいました。

先生方からの期待をしっかりと受けとめ、誇りを持てる長工を全校生徒で作っていきましょう。

四面へ続く

佐世保地区

頑張れの一言
ソフトテニス部女子

六月二日から三日にかけて、佐世保市総合グランドテニスコートで行われた女子ソフトテニス競技。試合前、顧問の大槻先生は短く「頑張れ」と一言。

女子団体の一回戦目の対戦相手は西海学園で、二対一で勝利。二回戦目は長崎東と対戦し、〇対二で敗退しました。

Ｉ２大川戦は、Ｉ３廣田、Ｉ２大川ペアが四回戦に進出しました。

主将のＩ３廣田夕夏さんに高総体の感想を聞くと「前半で二セット取られ、気持ちが落ちてしまいましたが、自分たちで挽回することができて良かったです。もう少し、自信を持って戦えれば良かったなと思います」と話してくれました。

最後に勇姿見せる
女子バレーボール部

佐世保市の東部スポーツ広場で行われた女子バレーボール競技。対馬高校を相手に一セットを奪いましたが、あと一歩のところで力及ばず、惜敗。

主将のＡ３中山結月さんは「公式戦では勝ちなしの私たちでしたが、最後の試合で一セット取ることができました。負けてしまいましたが悔いはありません。今後も今まで以上に頑張ってほしいです」と悔いのないすっきりとした様子でした。

また、顧問の林先生に感想を伺うと「あと少しだったと思うと、今までで一番悔しい負け方。一・二年生はまず先輩たちを超えてほしい。三年生は自分の夢を実現できるよう頑張れ」と今後に想いを込めて話されました。

▲いくぞー！
（女子バレーボール）

◀ハイタッチ！
（ソフトテニス女子）

通用する力を…
サッカー部

平戸市総合運動公園で行われたサッカー競技。初戦の相手は諫早高校。果敢に攻め、一対〇で勝利。二日目の相手は瓊浦高校。延長戦となりましたが、長工が意地を見せ、二対一で勝利。この試合後、応援されていた社会科の片山先生に感想を伺うと「よく耐えた。明日も厳しい戦いになると思うので、頑張ってください」と健闘を称えられていました。三日目の対戦相手は長崎南山高校。試合終了間際に点を取られ〇対三で敗れました。

主将のＭ３八木涼祐さんは「自分たちの力が通用する分と通用しない分があった。目標であった優勝を達成できず残念。次の大会こそは優勝したい」と感想を述べました。顧問の石村先生は「粘り強く頑張った。最後は実力の差が出た。残りの期間で追い越せるように頑張ろう」と次に向けて選手たちを激励しました。

▶仲間に繋ぐゴールキック

個人出場競技

両者ともに健闘
ボクシング競技

六月四日と五日の二日間にわたって長崎市諏訪体育館で行われた高総体ボクシング競技。

長工からはＭ３牧島郁矢さん、Ｃ３原口直也さんが出場。Ｍ３牧島さんが男子ライトウェイター級で三位、Ｃ３原口さんが男子バンタム級で三位という結果でした。牧島さんは繰り上がりで九州大会で出場が決定。

Ｍ３牧島さんは「優勝したかった。悔しいがこの気持ちを胸に九州大会ではひとつでも多く勝つ。悔いの残らないようにしたい」と九州大会への意気込みを。Ｃ３原口さんは「悔しい結果だった。これからは気持ちを切り替えて進路実現に向けて頑張りたい」と今後の目標を話してくれました。

◀しっかり相手を見据えて

集大成の組手できた
空手競技

六月二日に三菱重工総合体育館にて行われた空手競技。Ａ３山下蓮太郎さんが出場。二回戦、壱岐高校戦は勝利。続く三回戦で長崎日大高校と対決し、敗退しました。

高総体を振り返ってみて「入賞できなかったので結果に満足はできませんでしたが、試合内容は今までの集大成と言えるような組手ができ満足することができました。応援ありがとうございました」と話してくれました。

▶気合の入った攻め

伝えきれないこの想い 高総体この一枚①

まるで自分のことのように

この写真は私が男子バレーボールの取材に行った時に撮った一枚です。長工が点を取り、コートの選手たちが喜んでいる場面です。

長工が点を取ると、長工の応援スタンドから、「わっ！」と歓声が沸きます。長工は、県内でも特に応援に熱が入っている高校だと私は思います。

私たち新聞部はカメラを構えつつ、周りの保護者・応援生徒と一緒に長工の試合展開を見守っています。

これからも、長工生の活躍をどんどん紹介していきます。（渡部）

▲共に感じる喜び

魅せるサッカー部の絆

この写真は、南山戦で後半に点を入れられゴール前、倒れていたキーパーに、仲間の部員が手を貸し立ち上がっているところです。

サッカー部の仲間の絆を感じた一枚でした。

▲何度も諦めずに立ち上がる

後半、相手チームに点数を重ねられても最後のホイッスルが鳴るまで絶対に諦めない姿勢に感動しました。点数が入れられるたびに大きくなっていく「諦めるな」「これから」という応援の声。何度も選手達の心を奮い立たせたと思います。

私は、サッカーの試合自体を見るのが初めてで、点数を取ったり取られたりでこんなにハラハラするスポーツだとは知りませんでした。応援するだけでもこんなに気が焦るのだから選手たちの緊張は計り知れません。しかし、そんなに中でも仲間との絆を信じ、諦めない心を忘れない長工サッカー部はすごいチームだと思いました。（横田）

高総体編 てふ工生！！！ パート③

～新聞部へようこそ←～

※他にも英語部など臨時新聞部員に感謝…！

シリーズ ロボコン道 ⑨

夏休みに向けて

▲親機の製作過程

一学期も、もうすぐ終わり。現在ロボット研究部では夏休みまでに機体の原型を作ろうと取り掛かっています。夏休みは予定です。今は別々に作った機構を機体の枠組みに取り付けている最中。ロボットはただモーターと機構を取り付けるだけでは動きません。配線作業が必要なのです。歴代の部員たちを散々悩ませてきたこの作業。今年は無事クリアできるのか。とにかく、頑張るしかありません。（Ｍ３ 溝口）

一年生な日々

私たち一年生にとって初となった高総体。しかし、私は電子工学科で高総工事士の試験で第二種電気工事士の試験に合格した。

入学式の次の日から始まった朝補習。二か月前の事ですが、とても昔のことのように感じます。三月の合格者登校日に教科書と共に合格者っていてきた鑑別プリント集と分厚いテキスト。覚えるのが遅い私には、不安でしかありませんでした。この約二か月間は、高校入試よりも集中して勉強したのではないかと思いました。そして迎えた当日。試験が始まるギリギリまでテキストを見直しましたが、試験の出来は微妙です。開放された今の心境は：：「無」。次の実技試験に向けて気持ちを切り替えていこうと思います。

試験が終わった三日目、私は、新聞部として男子バレーボールとソフトテニスに取材へ。人の多さ圧倒されました。高総体は中総体よりも規模が大きく、応援から試合の雰囲気まで何もかもが違いました。

学校生活にはだいぶ慣れましたが、部活の方はまだまだ先輩に頼りっきり。自分で考えて行動し、もっと先輩の役に立てるよう、これから頑張っていきたいと思います。（松本）

編集後記

高総体から一か月以上過ぎましたが、なんとか発行することができた今号。期末テストをはさんでしまったせいか、かなり引き延ばしていましまったようなかんじがやってきます。いよいよ夏休みが課題はみ計画的に、早めに終わらせましょう。